

令和4年度 事務事業評価シート（1）

[令和3年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	交通バリアフリー化整備促進事業			事業番号	017-015
担当部署名	建築都市	局	交通	部	公共交通担当 課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(3) 市民の参加と協働による地域福祉の充実	
			有	取組の方向性	④面的・一体的なバリアフリー化の推進			
		寄与するKPI	有・無	指標名	—			
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	ゴール(1)住み続けられるまちづくりを	ターゲット	11.7	
			有	取組	公共施設や都市インフラの計画的な更新・補修の推進			
		寄与するKPI	有・無	指標名	—			
		無	現状値	—	目標値	—		

2	関連計画	—				
3	事業開始年度	平成 5 年度	点検年度	令和 7 年度		
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	堺市鉄道駅舎バリアフリー化設備整備事業補助金交付要綱 堺市地下高速鉄道駅舎バリアフリー化設備整備事業補助金交付要綱				

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁				
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	市民・鉄道利用者 (令和2年度堺市内鉄道駅一日平均利用者数：561,574人)	対象数	561,574	単位	人
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	障害者、高齢者など鉄道利用者の施設利用上の利便性及び安全性の向上を図るため、鉄道事業者によるバリアフリー化を促進する。				
8	事業内容 (目的を達成するための手段)	鉄道事業者が実施する視覚障害者のホームからの転落や列車との接触事故防止を目的とした可動式ホーム柵、軌道利用者の利用に供するために設置するエレベーターの整備事業等に対して、事業費を一部補助することにより、バリアフリー化を促進する。				
	※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など	○可動式ホーム柵（北花田駅・新金岡駅）				
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載	—				
9	主な支出先 (委託・補助金・負担金等)	大阪市高速電気軌道株式会社				
10	公民連携・協働事業	—				

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標	点検年度
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和7年度	
11 バリアフリー化設備整備駅舎数	駅	目標値	2	2	0	2	
		実績値	2	2			
		達成率	100%	100%			
当該指標を選定した理由		バリアフリー化に資する工事を実施した駅舎数を成果指標とする。					
目標値の設定根拠・算出方法		工事実施予定駅舎数					
活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標		
			令和2年度	令和3年度	令和4年度		
12 バリアフリー化設備整備補助実施件数	件	目標値	—	2	0		
		実績値	2	2			
		達成率	—	100%			
当該指標を選定した理由		補助の実施によりバリアフリー化設備整備の促進が図られるため。					
目標値の設定根拠・算出方法		補助予定なし。					

令和4年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	交通バリアフリー化整備促進事業	事業番号	017-015
-------	-----------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算
事業費 (a)	0	32,528	87,679	58,693	0
13 財源内訳	国支出金				0
	府支出金				0
	市債				0
	その他 (起債)		22,300	65,700	0
	受益者負担金(使用料、手数料等)				
一般財源	0	10,228	21,979	58,693	0
14 人件費 (b)	1,620	3,280	1,640	1,640	4,100
15 年間経費(c)=(a)+(b)	1,620	35,808	89,319	60,333	4,100

事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度	事業費	うち一般財源	項目	年度	事業費	うち一般財源
		R4 予算	0	0	R4 予算		
		R3 決算			R3 決算		
		R4 予算			R4 予算		
		R3 決算			R3 決算		
		R4 予算			R4 予算		
		R3 決算			R3 決算		
		R4 予算			R4 予算		
		R3 決算			R3 決算		
		R4 予算			R4 予算		

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和2年度	令和3年度
① 可動式ホーム柵整備番線数	番線	2	4
② 上記①にかかる年間経費	千円	32,260	60,333
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	16,130,000	15,083,250
備考 (算出についての説明等)	整備する項目によって予算額が大幅に異なるためホーム柵のみの事業の効率性を算出した。		

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18	<p>地下鉄御堂筋線の市内3駅の可動式ホーム柵の整備について、国の基準に準じて市が事業費の一部を補助することで令和2年度になかもず駅、令和3年度に新金岡駅、北花田駅の2駅の整備を行い3駅すべてにおいて整備が完了した。</p> <p>国の掲げるホーム柵の整備目標に向け、バリアフリー化整備に対し適正に補助し、バリアフリー化整備の進捗が図られた。</p> <p>R2年度、R3年度は、同一交通事業者（大阪市高速電気軌道株式会社）の整備事業であり、単位当たりの経費は前年度と同程度である。</p>
----	---

KPI等への寄与（基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか）

19	<p>可動式ホーム柵については、令和元年度から3年度にかけて地下鉄御堂筋線市内全駅において整備が完了した。鉄道事業者へ補助を行うことでバリアフリー化が促進され、障害者や高齢者などの鉄道利用者の利便性及び安全性の向上に寄与することができた。</p>
----	---